



町長：50年の歴史を持つ「武蔵流宗家武蔵太鼓」さん。和太鼓の魅力伝えるため、イベント出演などで活躍されています。

齋藤：ふるさと大使のお話をいただいた時は、プレッシャーも感じましたが、みんなで町を盛り上げていきたいという想いで活動しています。他の大使の皆さんと一緒に、おもしろいことをしてみたいですね。

町長：総勢17組の大使の皆さんと一緒に、さらなる可能性が広がりますよね。町でもっと芸術文化の輪を広めるためには何かが必要だと思いますか。

齋藤：様々な団体などとタッグを組みたいと思います。町に住んでいても三芳の芸術文化のことを知らない人も多いと思うので、学校や企業、行政なども含めて協力していけたら楽しいです。先を見据えて、毎年何かしら形にしていきたいですね。

MUSASHI TAIKO

タッグを組んで次の一歩を



町民体育祭での演奏。来場者向けの太鼓体験も行い、多くの人が参加しました。

町長：体育祭で武蔵太鼓の皆さんに演奏してもらったように、様々な枠を超えて芸術文化を広める場をつくっていききたいと思います。齋藤さんの今年の抱負を聞かせてください。

齋藤：今年は積極的に周りを巻き込んでいく一年にしたいです。「コロナ禍を経て、待っているだけではだめだ」ということを学びました。会としては次の節目の55年へ歩みを進めていきたいです。

町長：新たな一歩を踏み出す武蔵太鼓の皆さん。今後、楽しみにしています。

KURUMANINGYO



公演では人形芝居と、三味線にあわせて語り「説経節」が物語をつむぎます。

伝統の豊かな表現を未来へ

町長：江戸時代から受け継がれる伝統芸能「竹間沢車人形」。日本でも3地域にしか継承されていない貴重な文化を守り続ける「竹間沢車人形保存会」の皆さんをふるさと大使に任命させていただきました。

小澤：私自身は4年前からボランティアとして保存会の活動に参加しています。思い通りに人形を動かすのは難しいですが、車人形を一人でも多くの人に知ってもらいたいという気持ちで演じています。

町長：車人形の魅力を公演や体験教室で発信していただいています。町の伝統芸能をさらに浸透させていくためのアイデアはありますか。

小澤：子どもたちの中には、車人形などの伝統芸能に興味がある子どもも多いと聞きます。そうした子どもたちを、小学生の間だけでなく、中学～高校へと橋渡しして

環境をつくる必要があると思います。放課後、体験教室を開催するのもいいと思います。

町長：長期に渡って町の文化に携わってくれる子どもたちが増えるといいですね。町民の皆さんへメッセージをお願いします。

小澤：車人形の魅力はアナログな技法だからこそ生み出せる豊かな表現だと感じています。ぜひ、公演に足を運んでみてもらえたら嬉しいです。

町長：ありがとうございます。今年の車人形公演も楽しみにしています。

町長：「さだみ太鼓」の皆さんは、町内各地のイベントで和太鼓の演奏を披露されていますね。ふるさと大使になつての想いはいかがですか。

塩野：大使に任命され、非常に光栄です。ここ数年は「コロナ禍の影響で出演するイベントが減ってしまいましたが、今後はお披露目できる場所を増やして、どんどんPRしていきたいですね。

町長：「コロナ禍を乗り越えての活躍、楽しみにしています。普段から公共施設で活動されているところが多いので、もっと整備を進めてもらえたら嬉しいですね。

町長：現在進めている藤久保地域拠点施設整備等事業では、公共施設や小学校などを複合化する

KITAMI DAIKO



みよしまつりでのパフォーマンス。約5万人の来場者の前で披露しました。

町長：「さだみ太鼓」の皆さんは、町内各地のイベントで和太鼓の演奏を披露されていますね。ふるさと大使になつての想いはいかがですか。

塩野：大使に任命され、非常に光栄です。ここ数年は「コロナ禍の影響で出演するイベントが減ってしまいましたが、今後はお披露目できる場所を増やして、どんどんPRしていきたいですね。

町長：「コロナ禍を乗り越えての活躍、楽しみにしています。普段から公共施設で活動されているところが多いので、もっと整備を進めてもらえたら嬉しいですね。

町長：現在進めている藤久保地域拠点施設整備等事業では、公共施設や小学校などを複合化する

「胸を張れる」文化の町へ

クラシックを三芳から発信



過去にはマレーシアでも公演。海外にもクラシックの魅力を広めています。

町長：クラシック音楽の楽しさを演奏とレクチャーで伝えていく「アンサンブル凜」の皆さん。ふるさと大使になられての意気込みを聞かせてください。

増田：三芳町のことをたくさんの人に知ってほしいという気持ちで日々活動しています。この町が大好きという想いは誰にも負けません。

町長：それは嬉しいですね。新年を迎えて、力を入れて取り組んでいきたいことは何ですか。

増田：今年は、もっと住民の皆さんを巻き込んで活動していくための、第一歩の年にしたいと考えています。演奏会やイベントもできるだけ多く開催していきたいと思うので、ぜひたくさんの方に参加してほしいですね。

町長：新しい年の活躍が楽しみです。三芳町がもっと芸術文化の薫る町になるために、どんなことが必要だと思いますか。

町長：江戸時代から受け継がれる伝統芸能「竹間沢車人形」。日本でも3地域にしか継承されていない貴重な文化を守り続ける「竹間沢車人形保存会」の皆さんをふるさと大使に任命させていただきました。

小澤：私自身は4年前からボランティアとして保存会の活動に参加しています。思い通りに人形を動かすのは難しいですが、車人形を一人でも多くの人に知ってもらいたいという気持ちで演じています。

町長：車人形の魅力を公演や体験教室で発信していただいています。町の伝統芸能をさらに浸透させていくためのアイデアはありますか。

小澤：子どもたちの中には、車人形などの伝統芸能に興味がある子どもも多いと聞きます。そうした子どもたちを、小学生の間だけでなく、中学～高校へと橋渡しして

ENSEMBLE RIN